

編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）

平成18年2月発行

第25号

大阪市史料調査会（編集）

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

大阪市立中央図書館内

06-6539-3333

『新修大阪市史 史料編』第14巻（第3回配本）

「近代 行政1」を刊行

今回の第14巻は、本文編第5巻・第6巻のうち、^{けいあう}慶応4年（1868）から明治45年（1912）にかけての行政関係史料約500項目を収載しています。この時期は、明治維新にはじまる動乱の時代であり、国家から村・町にいたるまで、行政のしくみが次々と変革され、また外国との戦争もあって、市民生活にも大きく関わってきます。公文書、個人の日記、新聞史料など、当時の大阪について記した関連史料を通して、近代都市大阪成立への過程を具体的に明らかにしています

主な内容

- 第1章 明治維新と大阪
- 第2章 明治前期の行財政
- 第3章 大阪市の成立（明治22年4月1日）
- 第4章 市制特例の廃止と諸事業
- 第5章 大阪の軍隊と日清・日露戦争^{にっしん にちろ}

A5判、850ページ。大阪市立中央図書館ほか市内23館の地域図書館において^{えつらん}閲覧することができます。

また市内の主要書店【旭屋書店（梅田本店）、ジュンク堂書店（大阪本店、難波店）、中之島書店（大阪市役所地下）など】でも、販売を取り扱っています【頒布価格7,400円（税込）】。購入希望の方は、直接主要書店にお申し込みいただくか、発売元である（株）ぎょうせい（TEL：06-6352-2271）にお問い合わせください。



政府・大阪府の告示などを集めて刊行した『公布権録』^{こうふけんろく}

（山本鹿之助家文書）

歴史を伝える史料 ～大阪の明治時代～

たくさんの人々の協力によって、『新修大阪市史 史料編 近代行政1』（以下、『行政1』と略）を刊行することができました。『行政1』には、明治時代の大阪について詳しく知ることのできる史料を掲載しています。その史料総数は500点近くに及び、内容もさまざまですが、大きく次の3種類に分けることができます。

公文書（行政文書）…行政機構を運営するために作成された文書。大阪市における公文書は、「大阪市行政文書」「南区役所文書」などが残されており、『行政1』にもその重要史料が掲載されています。ほかにも戸長役場の史料や、政府で記録された「外務省記録」「陸軍省大日記」などがあります。

個人史料…公的に作成された文書のほかに、私文書があります。代表的なものに個人の行動範囲や生活実態を示す書簡（手紙）や、当時の心境を書き綴った日記などが挙げられます。『行政1』でも明治維新期の大阪について詳しく書いた「桜井慶次郎日記」や「井上市兵衛日記」、軍事関係の日記・書簡（このあとの「記録される戦場」を

ご参照ください）を多く載せています。

新聞史料…大阪の明治時代を語るうえで忘れてはならないのが、「新聞の登場」です。

現在にも続く『大阪朝日新聞』『大阪毎日新聞』といった有名新聞から、地域の細かな出来事を紹介する小新聞まで、さまざまな種類の新聞が人々にいち早く情報を伝え、一方では読者の娯楽として注目を集めました。『行政1』では、その名の通り、行政機構や政治に関する記事を多く載せています。

以上の史料を中心として『行政1』ができあがりました。先祖代々守り継がれてきたもの、所蔵機関（博物館や史料館・公文書館など）で大切に保管されてきたもの、そ

○大阪の歴史第67号 発売中（1冊700円＋送料210円）

【大大阪80年特集】

山形 政昭 「<大大阪時代>の建築」

山田充郎・村田公一・大塚融「大大阪とJ O B K」

芝村篤樹・橋爪紳也 対談

「<大大阪>から八〇年」

【論文】

野高 宏之 「近世前半の大坂市中宅地価格」

【史料紹介】

荒武賢一朗・片岡健

「東京大学法制史資料室所蔵

<大阪宗旨役所触扣>（上）」

その他

取り扱い書店 旭屋書店（梅田本店・天王寺M I O店・京都店）、ジュンク堂書店（大阪本店・難波店）、ユーゴー書店（阿倍野店）、中之島書店（大阪市役所地下）、四天王寺書林、大阪歴史博物館（なお、書店では消費税が加算されます）

通信販売も受けつけています。郵便局そなえつけの、青色の郵便振替用紙でご送金ください。

口座番号 00930-9-82241

加入者名 大阪市史料調査会

備考欄にご購入希望の号数と冊数をご記入ください。そのほか、くわしいことは、お問い合わせください。また、大阪市史編纂所で直接販売もしています。

大阪市西区北堀江4-3-2 大阪市立中央図書館3階
（地下鉄千日前線・鶴見緑地線西長堀駅下車）

電話06-6539-3333・FAX06-6539-3330

の「出身」はさまざまです。『行政1』を彩るたくさんの史料が、明治時代に生きた人々の「足跡」を我々に伝えてくれています。（荒武賢一郎）

記録される戦場

今回発行された史料編には、明治時代の軍隊についての史料も100点ほど掲載することができました。

そのなかから、およそ100年前に戦われた日露戦争（1904～5年）に従軍したある兵士のつけていた、従軍日記について紹介したいと思います。

日露戦争は朝鮮半島や中国東北部を支配するための主導権をめぐって戦われましたが、日本にとってもロシアにとっても国の総力を挙げた厳しい戦いとなりました。当時大阪にあった第4師団という軍隊に出動命令が出されたのは明治37年（1904）3月6日のことです。この兵士は第4師団の一員として従軍して激しい戦いを経験するなかで、戦場の様子を非常に詳しく記録しています。最初の激戦となった南山の戦い^{なんざん}については次のように記されています。



第4師団の行動

明治37年5月26日。晴。午前2時に出発。南山の攻撃に向かう。...午前4時過ぎ、待機していると夜が明けてきた。東の方向3000メートルほどにある南山の敵陣地^{じゅうほうげき}から猛烈な銃砲撃が始まった。あっという間に最前線の兵士の3分の1が死傷した。援護に次々加わるが、その度に死傷者が増える。一時間のあいだに金州湾^{きんしゅうわん}は血の色で赤く染まってしまったように思われる。前後左右どこを見ても何百人も倒れている。この様子は言葉に尽くせない。...もう鉄砲の音で耳は全く聞こえない。私の部隊は半数以上死傷した。それでも少しずつ前へ進む。午後1時頃、敵陣1000メートル付近までたどりついた。しかし砲弾がなくなり、補給の見込みもない。まるで一旦休戦したかのようである。前進するたびに地雷が爆発し、兵士の体は粉みじんになって落ちてくる。...隊長は馬に乗って「全員戦死してでも南山を占領せよ！」と号令した。...午後6時、南山のふもとまで前進した。後ろをふり返れば何千もの死体があり、もう目も当てられないありさまである。もしこの現場を父兄が見たら一体どうなってしまうことだろう。...

この兵士はこのすぐ後に地雷^{じらい}の破片をうけてケガをしたため、戦場の後ろの畑につくられた野戦病院^{やせん}に命がらたどりつきますが、あまりにケガ人が多く、治療もろくにしてもらえなかったと記してこの日の記事が終わります。戦場のすさまじい第一線の様子をなまなましく伝えた貴重な記録です。

日露戦争の時には機関銃^{きかんじゅう}が登場するなど武器の性能があがり、それまでの戦争とは比較にならないぐらいたくさんの弾が使われ、日露双方の犠牲者もおびただしい数にのぼりました。そうした激しい戦争の費用をまかなうために外国から借金が行われ、

国内でも増税が行われました。堺出身の歌人・与謝野晶子^{よさのあきこ}は戦場の弟を案じて「君死にたまふことなかれ」という詩を発表しましたが、戦争に反対の声を挙げることは「危険思想」であるとして非難されたのでした。（松岡弘之）

絵葉書でみる昔の大阪(4)

中之島公園（１９１０年ごろ）

この写真は中之島の、今では市役所の内部になっているあたりから撮影したものです。明治４３年（１９１０）刊行の『大阪名所写真帖』^{おおさかめいしよしゃしんちよう}にも似た構図の写真が収められており、樹木の高さが同じくらいにみえるので、これもその前後に撮影されたとみることができます。

当時このあたりは、中之島公園の一部で、市内では数少ない、市民の散策の場になっていました。正面にみえているのは府立大阪図書館、現在でいう中之島図書館です。明治３７年（１９０４）完成のこの建物は今もありますが、左右両翼^{さゆうりょうよく}が増築されているので、少し印象が変わっています。周囲にほかに大きな建物がないせいか、非常に巨大な建築にみえます。

向かって左手の大砲は「日露戦争記念砲」。日露戦争でロシア軍が使用した要塞砲^{ようさいほう}で、明治３８年（１９０５）の戦勝のあと、設置されたものです。このころ、国民に戦勝を身近に実感させるために、日露戦争の戦利品^{せんりひん}が日本各地に配分されましたが、そのひとつです。

また右手に見えているのは、豊臣秀吉の銅像です。明治３６年（１９０３）の第５回内国勲業博覧会^{ないこくくわんぎようはくらんかい}の際、市内の緑綬褒章受章者^{りよくじゆほうしょうじゆうしや}が記念のためにつくったもので、最初は大阪城に置かれていましたが、間もなく中之島に移されたものです。像のわりに石の台座のほうが、ずいぶん大きいですが、これはもともと明治２８年（１８９５）につくられた噴水で、市内の慢性的な水不足などもあって廃止され、銅像の台座に転用



されてしまったものです。ほかに明治３６年（１９０３）建築の大阪市公会堂もあったはずですが、現在の中之島中央公会堂（大正７年完成）よりはふたまわりほど小さい建物だったので、図書館の影にすっかり隠れてしまい、みえていません。

▼ 大阪市史編纂所では、所の仕事の紹介や、刊行物の案内などのため、ホームページを開設しています。アドレスは下記のとおりです。または主だった検索エンジンで、「大阪市史編纂所（おおさかししへんさんしょ）」でおさがしてください。

<http://www.oml.city.osaka.jp/hensansho/>